

附 1. 58年度第1回班会議プログラム

日時：昭和58年7月30日（土）

午後1：00～5：00

場所：日赤医療センター 2階講堂

議題：本研究班の研究計画の検討

附 2. 58年度第2回班会議プログラム

文部省 川崎病の本態解明に関する研究班

厚生省 川崎病に関する研究－研究班

合 同 班 会 議

日時：第1日目…昭和59年 1 月20日（金）（文部省研究班主催）

午前9：00～午後5：00

第2日目…昭和59年 1 月21日（土）（厚生省研究班主催）

午前9：00～午後5：00

場所：日赤医療センター 2階講堂

第1日目〔1月20日(金)〕

1. 班長挨拶
2. 研究発表（発表10分，討論5分）

AM 9:15～

座長 加藤 裕久

- 1) 川崎病の病因に関するこれまでの検索成績
中尾 亨・○千葉 峻三・木村 健修（札幌医大小児科）
- 2) BCG感作モルモットに対する *Propionibacterium acnes* 接種の足蹠反応
○井上 治・藤本 保・古賀 優子・加藤 裕久
（久留米大小児科）
- 3) 川崎病患者血清の *Propionibacterium acnes* に対する凝集反応
○井上 治・藤本 保・古賀 優子・加藤 裕久
（久留米大小児科） Du Bong Lee.
- 4) 川崎病における *Propionibacterium acnes*
○保科 清・草川 三治（東京女子医大第二病院小児科）
- 5) 川崎病患者末梢リンパ球のEBウィルス反応性
○菊田 英明・大里外誉郎（北大癌研ウィルス）
松本 脩三（北大小児科）
- 6) 川崎病患者ならびに患者宅ダニからの嫌気性菌およびマイコプラズマの分離
○興水 馨・山本 孝史・原沢 亮・河村 晴次
（東大医動物実験施設）
- 7) 川崎病と溶連菌感染
○上野 忠彦・松見富士夫（自衛隊中央病院小児科）
- 8) 溶連菌ペプチドグリカンに対する抗体価の経時的変動
○山中 令子（藤枝市立志太総合病院小児科）
太神 和広・小林 登（東大小児科）

—— 昼 食 ——

PM 1:00～

座長 濱 島 義 博

- 9) 「川崎病患者の皮膚発疹部位の所見」の試み（短報）
牛島 廣治・朴 杓允・吉野加津也（帝京大小児科）
- 10) BCG潰瘍の成因について
○徳永 徹・巽 正志（国立予防衛生研究所）
- 11) 馬ウィルス性動脈炎（*Equine viral arteritis*）及び犬の自然発症動脈炎：
川崎病との対比
○田中 昇・上野 哲夫・直江 史郎・増田 毅弘
（千葉県がんセンター研究所）
- 12) 乳幼児冠動脈の形態特徴と川崎病血管炎
○影山 圭三（慶応大病理）清水 興一（国立小児病院）
- 13) もどし電顕固定包埋法による川崎病剖検例からの Particle の検索，第2
報：心筋炎組織からの Particle の検索
○清水 城司・高 大成・藤原 久義・濱島 義博
（京大病理）

14) Ratによる実験血管炎

中戸 秀和・○四宮 敬介・三河 春樹(京大小児科)

15) 川崎病の急性期血液細胞の電顕的観察

○鈴木 宏・今野 多助(東北大小児科)

———— Coffee Break 15分 ————

PM 3:00~

座長 矢田 純一

16) 川崎病の病因について—免疫学的研究およびヒト免疫グロブリン療法からみて—

○古川 漸・荻原 篤・季 次男・津田 正晴
金田 吉男・加藤 英夫(順天堂大小児科)

17) in vivo, in vitroにおける高濃度ヒトガンマグロブリン製剤の血小板凝集能に対する影響

○五十嵐 隆・岩田 力・小林 登(東大小児科)

18) 川崎病患者血清中の血管内皮細胞増殖因子について

○吉野谷定美・橋本 嘉・三田村忠行・相川 崇史
宮本 昭正(東大物療内科)

19) MCLS 患者血清中のリンパ球機能誘導・修飾因子について

○松岡 芳子・大久保直樹・四宮 範明・矢田 純一
(東京医歯大小児科)

20) 川崎病患児および他疾患児における末梢血リンパ球、単球サブセットの変動について

○柳瀬 義男・川崎 富作(日赤医療センター小児科)
奥村 康・多田 富雄(東大免疫学)

第2日目〔1月21日(土)〕

1. 班長挨拶

2. 研究発表(発表6~7分, 討論3~4分)

AM 9:00~

座長 柳川 洋

1) 山形県の川崎病実態調査について

佐藤 哲雄(山形大小児科)

2) 8年間の川崎病死亡の推移

柳川 洋(自治医大公衆衛生学)

AM 9:20~

座長 濱島 義博

3) 3回の川崎病症状を呈した4才11ヵ月男児の剖検所見について

直江 史郎(東邦大病理学) 関 一郎(都立墨東病院)
加藤 裕久(久留米大小児科)

4) 川崎病剖検心における冠動脈内腔面積の定量的解析

藤原 久義・藤原 悦子・高 大成・清水 城司
濱島 義博(京大病理学)

5) 雑種成犬における直接侵襲による冠動脈瘤作製の試み

富田 英(国立循環器病センター小児科)

AM 9:50~

座長 大 国 真 彦

- 6) 川崎病患児における Thromboxane B₂ 値の経時的变化について
播磨 良一(明和病院小児科)
- 7) 川崎病のアスピリン少量療法における血小板凝集能およびTXB₂産生
五十嵐 隆・太神 和広・小林 登(東大小児科)
- 8) 川崎病へのガンマグロブリン投与時の血小板機能の変化
桜井 迪郎(遠州総合病院)
五十嵐 隆・太神 和広・小林 登(東大小児科)
- 9) 血小板, 血管壁相互作用における γ グロブリンの意義
山田 兼雄(聖マリアンナ医大小児科)
- 10) 大量 γ -グロブリン療法の好中球酵素放出能に対する影響
鈴木 和男・坂谷達一郎・笹川 澄子(放射線影響研究所)
岡崎 富雄(広島市民病院小児科)

AM 10:40~

座長 神 谷 哲 郎

- 11) 川崎病のヒト免疫グロブリン療法とアスピリン療法について
古川 漸・福田 豊・荻原 篤, 津田 正晴
金田 吉男・加藤 英夫(順天堂大小児科)
- 12) 川崎病における γ -グロブリン大量点滴療法
— 多施設による control study —
古庄 巻史(小倉記念病院小児科)
(*文部省研究と同一演題です)
- 13) 川崎病における内胸動脈使用冠動脈バイパス手術成功例
北村惣一郎(奈良医大第3外科)

AM 11:20~

座長 加 藤 裕 久

- 14) 局所性冠動脈狭窄のみを呈した2症例の急性期臨床経過
田宮 寛・尾内善四郎・愛知医大小児科)
- 15) 造影法による川崎病冠動脈拡大性病変の定量的検討
中野 博行(静岡県立こども病院循環器科)
- 16) 130名の臨床所見(20項目)についての検討結果の紹介
保崎 純郎(東京医歯大小児科)
- 17) 多変量解析による冠動脈障害予後の推定
鈴木 淳子(国立循環器病センター小児科)
- 18) 前研究班の治療遠隔成績
多田羅勝義・草川 三治(東京女子医大第2病院小児科)

————— 昼 食 —————

PM 1:00~

小委員会の報告及び討議
来年度の計画の討議